

2013年8月4日

高知大学学長
脇口 宏 様

高知海南史学会

旧高知海軍航空隊耐弾式通信所の保存についての要望書

平素は本会の活動にご理解ご協力をいただき誠にありがとうございます。

さて、高知大学農学部敷地内にある旧高知航空隊耐弾式通信所について、開発計画があり保存が危ぶまれているとの報道に接しました。報道によりますと、貴学は遺構の重要性を理解され、遺構の保存を考慮した土地利用をお考えであると伺っております。

しかしながら、遺構の保存計画については未定であり、地下にある通路並びに地下室の詳しい調査をせずに砂等で埋めて、通信所の上を駐車場として活用するという計画もあると仄聞しております。遺構の実態解明についてはまだ緒に就いたばかりです。

遺構を破壊しないという方向へ計画を変更されたことは、一定の評価をするものです。しかし、砂等で地下通路と地下室を埋めると、遺構の見学はおろか詳細な調査を行うことが困難となることは明らかなです。もしそのようなことが実施されるとしますと、保存は実質的な意味を持たず、いわば埋め殺された状態となりましょう。

貴学もご承知のとおり、高知海軍航空隊は特別攻撃隊の訓練を行った基地です。その基地に関する遺構は、掩体壕と農学部内にある指揮所を除くと耐弾式通信所のみとなっています。しかも耐弾式通信所の地下室の一部は貴学人文学部の共同研究プロジェクトによって、遺存状況がきわめてよいことが明らかにされ、「県下の戦争遺跡の中でも特筆すべき存在」という評価を受けています。言い換えれば、悲惨な戦争体験を伝える数少ない遺構ということができるでしょう。戦後65年を過ぎて戦争体験者が少なくなる中、本遺構は戦争の実情を伝える貴重な資料であり、歴史教育の教材として重要です。

南国市は掩体壕を市指定文化財に指定し、そのうち1基を整備し公園化をはかり、見学に堪えるように整備をしています。今後、歴史を考える教材として、あるいは観光スポットとして活用されることが期待されています。農学部敷地内の遺構も、同じ高知海軍航空隊の遺構ですので、南国市と連携し適切に保存することが望まれます。

耐弾式通信所の重要性を鑑み、以下3点の要望を行います。

1. 遺構を損なうような土地活用は行わないこと。
2. 耐弾式通信所内の構造物の現状を把握する調査を実施し、適切な保存管理計画をたてて実行すること。
3. 構造物が見学に堪えると判断された場合には、保存・整備を目的とした調査を行い、歴史教育の教材や研究資料として活用できるようにすること。